

古モノが織りなす地域とこどもの縁

1. 子どもと地域の人々の暮らしとの共生

かつての町では、人々は物々交換やお裾分けなどモノを介して豊かに交流してきた。しかし現在これらの関係は希薄になりつつあり、モノは家の中へ中へと仕舞われたり捨てられることが多くなってきている。ここで、「古モノ」(タンスの中に眠っているモノ)と古モノを持ってきてくれる地域の人々との「古モノコミュニティ」をきっかけにした、こども園と地域の人々の暮らしとの共生を提案する。



2. 地域の人々の暮らしとの共生のシステム

古いモノには、つくった人の工夫や、持っていた人の思い出やたくさんつまっている。そういった古モノを介して、子どもと、古モノと、古モノを寄贈してくれる多世代の人々と交流の中で、子どもたちはモノを大切にする事の重要性や古モノに新しい価値を見出だしていく楽しさを学んでいく。

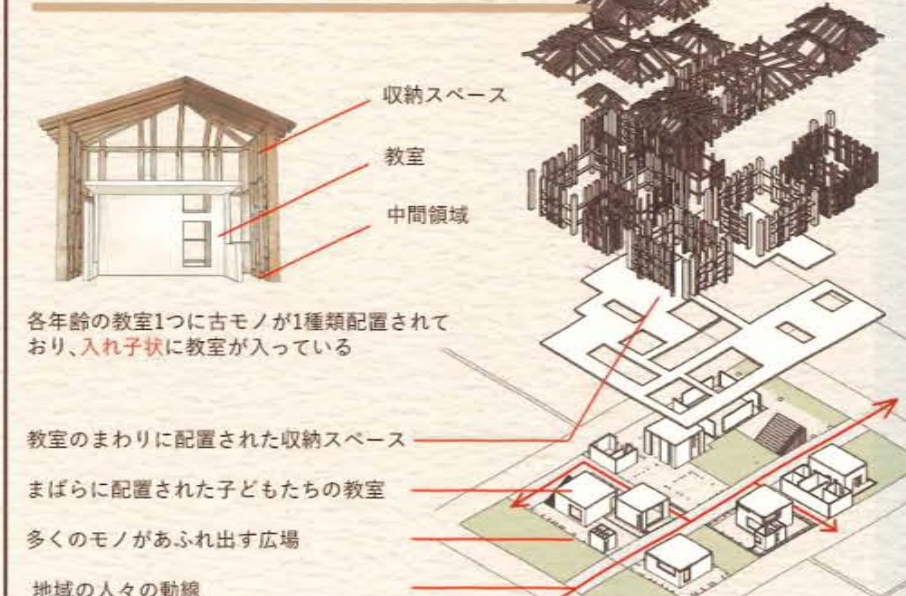


3. 集めた古モノと子どもたちと地域の人々

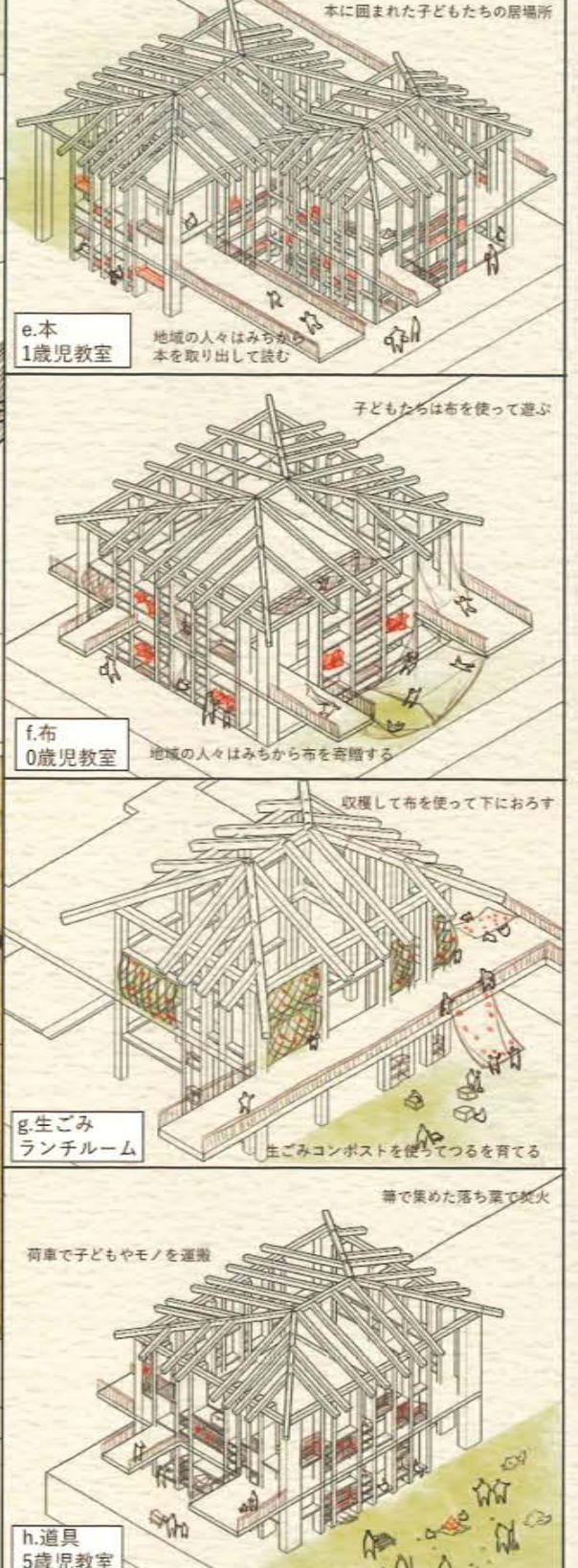
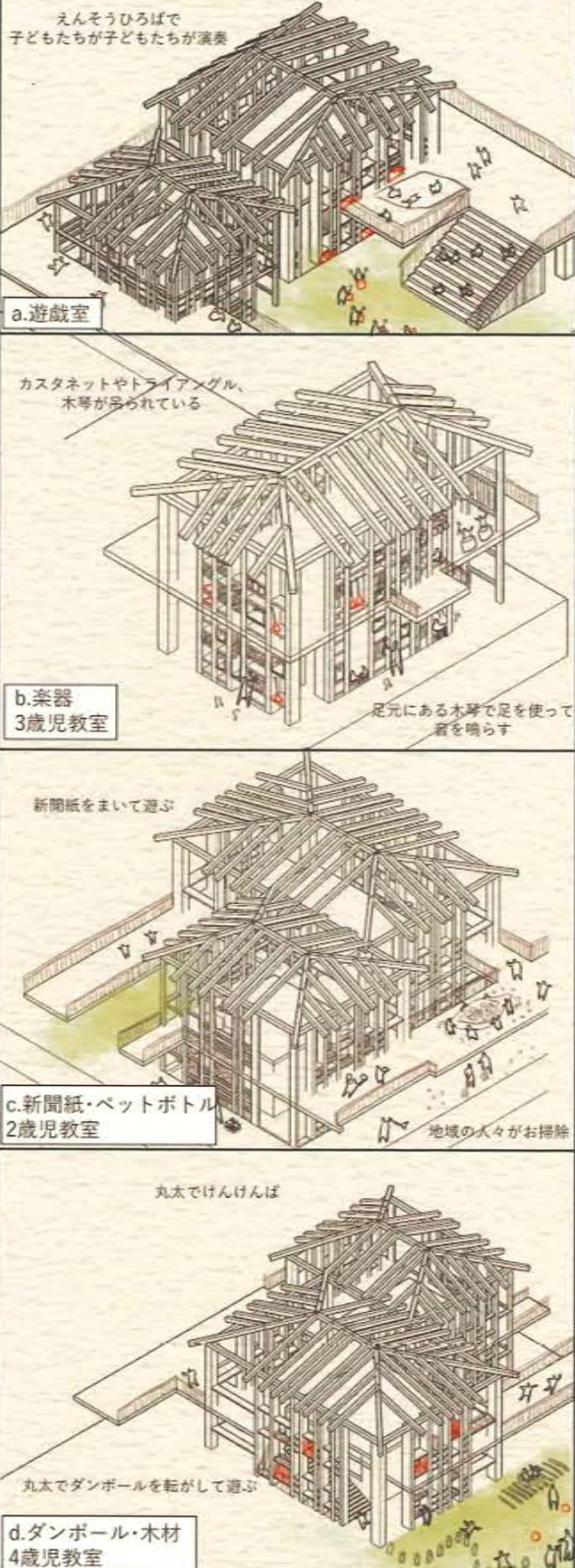


こども園に送り迎えをしてくれるお母さん、お父さんや、園を卒業した子どもたち、地域住民が、こども園に古モノや古材(資源)を持っていき、子どもや地域住民が集まったモノを再び利用して学んだり遊んだり、組み合わせて新しくモノを作ったりすることができる。

4. 古モノ収納スペースと教室



5. マチのような8つの古モノの場



6. 子どもたちの断面的な遊び場

